

表2 就職当時の希望度

	寮母 (%)	指導員 (%)	全体 (%)
強く希望した	17 (25.4)	2 (10.0)	19 (21.8)
ある程度は希望した	40 (59.7)	12 (60.0)	52 (59.8)
あまり希望しなかった	9 (13.4)	5 (25.0)	14 (16.1)
全く希望しなかった	1 (1.5)	1 (5.0)	2 (2.3)
合計	67 (100.0)	20 (100.0)	87 (100.0)

無回答=5

えた人が71人で有効回答者の8割を超えている。

2 現在の仕事に対する満足度 (満足度)

また、「あなたは現在の仕事についてどう思いますか」という質問に対して、「大変よい」と「よい」を合わせて49人で回答者の56.3%に達している。だが、「やや後悔」と「後悔している」をまとめて11人で18.4%になる。

表3 現在の仕事に対する満足度

	寮母 (%)	指導員 (%)	全体 (%)
大変よい	9 (13.2)	4 (21.1)	13 (14.9)
よい	29 (42.6)	7 (36.8)	36 (41.4)
ふつう	23 (33.8)	4 (21.1)	27 (31.0)
やや後悔	7 (10.3)	1 (5.3)	8 (9.2)
後悔している	- (0.0)	3 (15.8)	3 (3.4)
合計	68 (100.0)	19 (100.0)	87 (100.0)

無回答=5

3 後悔している理由

「やや後悔」と「後悔している」と答えた人(11人)にその理由について尋ねた結果、「その他」³⁾を除くと、「労働条件がよくない」が7人(63.6%)で、最も多い。次いで、「給与が低い」

が6人(54.5%)、「社会的評価が低い」が4人(36.4%)、「自分の性格や好みに合っていない」が3人(27.3%)、「一生の仕事としては物足りない」が1人(8.9%)である。

(3) 老人観

前述したように援助対象者である高齢者に対するイメージ(老人観)や知識が、介護職員の援助に影響していると指摘されている(堀の内、1998)。また、高齢者や高齢社会に関して無知であることや、誤った知識を持っていることが、健康や豊かな老後生活を阻害したり、偏見や差別を固定化していると指摘する研究者もいる(小田、1995)。ところが、職員の老人観・知識がどのぐらい、そしてどのように介護意識に影響しているのかはまだ解明されていない。そこで、本研究は老人ホーム職員の老人観・知識と介護意識の関係を明らかにするために、Palmore E. P. (1988)が開発したThe Facts on Aging QuizとThe Facts on Aging and Mental Health Quizから、日本の文化や状況に合った30項目を選んだ。PalmoreのThe Facts on Aging Quizでは、高齢者の身体的、精神的、社会的事実に関する基礎的な事柄で多くの人が誤解していると考えられた25項目から、(1)～(15)の15項目が選ばれた。また、高齢者の精神疾患に関する25項目で構成されているThe Fact on Aging and Mental Health Quizから(16)～(30)の15項目を採用した。また、各質問文に対して「はい」、「いいえ」、「分からない」の三択で回答を得る方法にした。

1 集計結果

老人観・知識に関する30項目の単純集計の結果は表4の通りである。正解項目の平均数は16.44問(標準偏差=4.03問)で、最大値が25問、最小値が5問である。また誤答項目の平均数は6.72問(標準偏差=2.59問)である。

2 点数化

職員の「老人観・知識」と「介護意識」との関係を経験的にみるために、以下のように「老人

3) 現在の仕事に対して後悔している理由の「その他」の内容については、「職員間の人間関係」(3人)、「体力不足」(1人)、「管理職の考えとのずれ」(1人)、「利用者に関する機会が少ない」(1人)が記入された。